



● 草の根パートナー型

平成20年度第2回 採択内定案件

| I. 提案事業の概要 | |
|-----------------|--|
| 1. 国名 | 東ティモール |
| 2. 事業名 | コーヒー生産者協同組合モデルの普及 |
| 3. 事業の背景と必要性 | 東ティモールでは、コーヒーが主要産業であるが、その生産を支える農民の多くは恒常的な貧困に悩まされている。当団体がJICA草の根パートナー型事業として行った先行事業の実績は東ティモール政府にも認められているが、対象地域内での活動にとどまっており全国的な波及力を持ちえていない。協同組合組織化が進んでいない他地域においては、品質のばらつき、技術力のなさから、企業等に対する価格交渉力がなく従属構造に陥っている。コーヒー生産者の自立には、協同組合の組織強化を基礎として、品質改善、コーヒー畑の改善に集団的に取り組むことが必須である。指導員やマニュアルなどの整備も不十分で人材育成を行う環境が整っていないため、本事業では組織強化と横の連携により、協同組合のモデル普及を図り、コーヒー生産者の自立と生活の質の向上を目指す。 |
| 4. 事業の目的 | 政府機関（協同組合局／コーヒー局）の指導のもとでコーヒー生産者協同組合連合（Union）がコーヒーの出荷、品質管理を行うことによりコーヒー農家の自立発展の条件を整える。 |
| 5. 対象地域 | ディリ市、アイナロ県マウベシ郡その他主要コーヒー産地 |
| 6. 受益者層 | アイナロ県マウベシ郡全土のコーヒー生産者（約1000～2000世帯） |
| 7. 活動及び期待される成果 | <ol style="list-style-type: none"> 1. マウベシコーヒー生産者協同組合がモデルとして確立されるために、組合役員を対象とした研修の実施、新規組合組織化およびコーヒー加工場建設を行う。 2. 複数のコーヒー生産者協同組合によってコーヒー数量、価格などについての定期協議が行われるように、関係する先方政府機関職員や組合員を対象とした組合に関する研修、生産者グループの相互視察を行い、協同組合の連携をはかる。 3. 複数のコーヒー生産者協同組合間でコーヒー品質管理の協力がなされるように、協同組合と生産者グループによる加工過程の相互視察および協同組合の中核メンバーに対する品質管理、組織運営の研修を実施する。 4. 協同組合局によってコーヒー生産者協同組合の組織運営指導及び監査が実施されるように、協同組合理解促進キャンペーンへの協力および協同組合による事業監査、財務監査の実施に協力する。 5. コーヒー局によってコーヒー品質基準が設定され、協同組合に指導されるように、コーヒー畑管理マニュアルの策定および輸出向けコーヒー豆の品質基準の設定に協力し、協同組合に対するコーヒー加工および畑管理の研修を実施する。 |
| 8. 実施期間 | 2009年6月～2012年5月（3年） |
| 9. 事業費 | 49,964千円（予定） |
| 10. 事業の実施体制 | パルシック東ティモール事務所日本人プロジェクトマネージャーおよび現地調整員を配置し、東ティモール人の現地業務補助員3名とともに当提案事業を実施する。また東京事務所においてはプロジェクト調整員が協同組合専門家、JICA地球ひろばのアドバイスを得ながら、定期的に現地を視察し、評価・方針確定を行うとともに、国内調整員を配置し、フェアトレード市場の拡大、広報を実施する。カウンターパート機関は、東ティモール経済開発省協同組合局とし、コーヒー加工の技術的側面については、農水省コーヒー局とも連携して事業を実施する。 |
| II. 実施団体の概要 | |
| 1. 団体名 | 特定非営利活動法人 パルシック |
| 2. 活動内容 | 東ティモールおよびスリランカにおけるコミュニティ支援活動、フェアトレード事業 |
| 3. 対象国との関係、協力実績 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1999年～2002年 緊急援助活動実施 ● 2002年～2003年 アイナロ県マウベシ郡コーヒー生産農民支援 ● 2003年～2006年 JICA草の根技術協力（パートナー型）第1期アイナロ県マウベシ郡コーヒー生産者協同組合支援事業 ● 2006年～2009年 JICA草の根技術協力（パートナー型）第2期アイナロ県マウベシ郡コーヒー生産者協同組合支援事業 |